

CMS を活用した、非デザイン学生向け ビジュアルデザイン思考育成のための基礎教育プログラム

有賀妙子[†]渡部隆志[‡]大谷俊郎^{††}川田隆雄[†]同志社女子大学[†]
学芸学部情報メディア学科大阪電気通信大学[‡]
総合情報学部デジタルゲーム学科京都芸術デザイン専門学校^{††}
情報システム総合コース

1 はじめに

ビジュアルコミュニケーションデザインを対象とした基礎教育プログラムを、一般教育として、開発するのが本研究の目的である。デザインを専門としない学生が、ビジュアルイメージの持つ意味を理解し、使い、制作する能力を高め、デザイン思考を養成することを目指す。リーフレットや Web ページの制作といった具体的直接的なデザイン演習ではなく、知覚や記号的な意味について考えるなど抽象度の高い視点のテーマの演習からなる。

演習では、クラス内で受講生が制作物を共有し、互いに利用し、評価しあう目的で、Web コンテンツを利用する。そのためのブログ形式の Web システムを、CMS(WordPress)を使って開発した。成果物の共有化、すなわち従来の宿題とは違い、クラス全体に向けて提出し、相互に評価する方法については、多くの実践研究がある(例えば[1])。本研究では、CMS の汎用記事入力エディタを使うのではなく、演習に合わせた入力フォームを用意、そこから投稿、表示する Web システムを構築した。授業での実践を踏まえ、他の教育現場への適用の容易さなどを、学生が個別に HTML ファイルを作成する方法と比較して、報告する。

2 教育プログラムの目的

どの分野の学びにも、またどのような仕事の場面でも、適切なビジュアルコミュニケーションが求められる。そのためにビジュアルイメージの意味を理解し、使い、制作することは重要であり、それは各々の活動において、例えばスライド、研究発表ポスターや Web サイトといった具体的ビジュアルコミュニケーションの道具を制作する際に、基礎的素養となる。

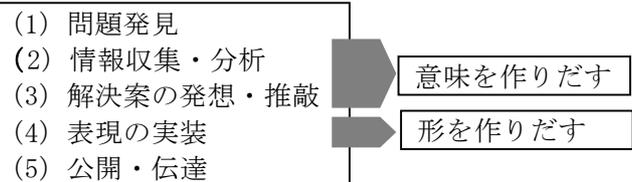


図1 デザインプロセス

ビジュアルデザインは大きく図1のような5つのプロセスで進む。形を作り出すプロセス(4)の前に、(2)(3)の意味を作り出すプロセスがある。表現の実装を行う(4)のプロセスに対しては、非デザイナー向けに教材や教育コースが研究、開発されてきた(例えば[2][3])。

多くの大学でも一般教養の観点から、プレゼンテーションやコミュニケーションスキルの一環として、ビジュアルデザインに関係した科目を設定している。しかし、形を作る前の(2)(3)のプロセスに対する非デザイナー向けの教育プログラムは少ない。本研究では、ビジュアルコミュニケーションデザインにおける重要な要素である画像(写真)を取り上げ、それがもつ意味を考え、観察して創作する教育プログラムを開発した。

ビジュアルコンテンツを批判的に見る、使う、作る能力をビジュアルリテラシーと呼び、学部横断的に必要な能力として、その学びの標準化が提案されている[4]。本教育内容は、その中で、イメージの意味を分析し、使用し、デザインする部分と重なる。また高等学校科目「社会と情報」の情報の活用と表現の学習にも適用できる。

3 演習内容

教育プログラムは表1に示す4つの演習からなり、それぞれ知覚、ビジュアル変数、記号、時間をテーマとする。日常生活での観察や、イメージの記号的意味、見えないものを可視化する方法を考え、それを言語化することで、ビジュアルイメージが持つ意味への理解の深化を意図している。演習1と2は図1のプロセス(2)を、演習3と4はプロセス(3)におけるデザイン思考を育成することをめざしている。写真を要素として使うことで、学生個人のスケッチや描画スキルで演習結果に差が出ない内容とした。

Learning Program in Visual Design Thinking for Non-Design Students using CMS

[†] ARIGA Taeko, KAWATA Takao, Doshisha Women's College of Liberal Arts, Department of Information and Media

[‡] WATANABE Takashi, Osaka Electro-Communication University, Department of Digital Games

^{††} OTANI Toshiro, Creative Design College, Advanced Media Design Course

表1 演習の内容

情報収集・分析		Webで共有する内容
演習1	視覚の知覚傾向の理解と観察	観察結果の写真(6枚)と説明
演習2	ビジュアル変数の理解と画像を使った量的スケールの作成	スケールを構成する画像(10枚)と説明
解決案の発想・推敲		Webで共有する内容
演習3	画像のもつ記号的意味の理解と新しい意味の生成	言葉の意味を表す写真(9枚) 新しい意味を生む組写真(4枚)と説明
演習4	見えない時間の流れの視覚化	タイムラインの記録 発想推敲過程と結果, 説明

演習では、受講生の制作物を Web コンテンツとしてクラス全体で共有する。制作物の共有化は他者の視点や思考を知るという意味で重要な役割をもつ。

4 成果共有のための Web コンテンツ

表1に示したように、画像と文章をクラス内で共有する。共有化のための Web コンテンツは次のような機能をもつ。

- ・画像と文章をアップロードする。
- ・個人の演習成果のアーカイブとなる。
- ・演習成果を互いに閲覧する。
- ・演習3では、2つのステップを順番に表示する。
- ・演習4では、素材写真、発想推敲の途中結果も公開し、リンクで順番に表示する。

2012年と2013年にこの教育プログラムを実施したが、2012年は演習ごとに HTML ファイルの枠組みを用意し、学生は自分の写真のファイル名、タイトル、説明文を指定された部分に埋め込み、それを個々にサーバへアップロードする方法で実現した(静的 HTML 方式)。

2013年には、CMS(Content Management System)のひとつである WordPress をプラットフォームと

して Web システムを開発し、ブログへの投稿という形で、共有化を図った。(CMS 方式, 図2)。

CMS 方式は、演習内容の説明などを示した固定ページと、演習に応じた入力フォーム、表示レイアウトをもつカスタム投稿から成る。投稿は演習単位で行い、演習ごとに、また投稿者ごとに一覧できるようにした。加えて、制作物を A4 サイズ 1 枚で印刷できるように、演習ごとに印刷用のスタイルシートを用意した。

5 授業実践における静的 HTML 方式と CMS 方式

2012年(受講生 60人)、2013年(70人)に半期の授業で、この教育プログラムの内演習1から3を実施した。2012年の静的 HTML 方式では、学生各自が作る HTML ファイル以外に、閲覧用に学生ごと、演習ごとの一覧ページを別途作成した。この作業は必要だが、他教育現場への適用は、枠組み HTML ファイルを配布し、既存の Web サーバをユーザとして利用するだけで容易である。しかし、HTML ファイルをエディタで編集し、Web ページを作るという、演習内容とは直接関係のない作業が入る上、学生の編集ミスにより、ページに不具合が発生する。

一方、CMS 投稿方式は、画像選択と入力域へのテキスト入力という操作だけであり、課題の提出方法としてシンプルで適している。投稿へのリンク一覧や表示レイアウトなども WordPress プラグインを使い、制御できる。授業において CMS による共有化はうまく機能した。しかし、他教育場面へ適用するには、Web サーバ上に CMS システムを再構築する必要がある。開発した CMS をテンプレート(テーマ)化すれば、比較的容易に再構築ができるが、移植テストにおいて、Web サーバ環境により不具合が発生した。解決にはサーバ管理者権限に関係する変更が必要になり、サーバ環境が他教育現場での適用の壁となる。環境に応じて使い分けられるように、教材として両方を準備したい。

(2012年度同志社女子大学研究助成金の支援を受けた)

【参考文献】

- [1] Waycott, J., Sheard, J., Thompson, C., & Clerehan, R., Making students' work visible on the social web: A blessing or a curse?, Computers & Education 68, 86-95, 2013
- [2] Williams, R., The Non-Designer's Design Book, 3rd edition, Upper Saddle River, NJ: Pearson Education, 2008
- [3] Ariga, T., Watanabe, T., Teaching materials to enhance the visual expression of Web pages for students not in art or design majors, Computers & Education, Volume 51, Issue 2, pp.815-828, 2008
- [4] ACRL, Visual Literacy Competency Standards for Higher Education, C&RL News, pp97-104, Feb. 2012



図2 共有 Web サイト(演習3のステップ1)